# 令和３年度
# 劇場・音楽堂等機能強化推進事業
# （地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業）
# 成果報告書

| | | |
|---|---|---|
| 団体名 | | 有限会社プーク人形劇場 |
| 施設名 | | プーク人形劇場 |
| 助成対象活動名 | | 公演事業・人材養成事業・普及啓発事業 |
| 内定額(総額) | | 13,889 （千円） |
| | 公演事業 | 7,330 （千円） |
| | 人材養成事業 | 1,163 （千円） |
| | 普及啓発事業 | 5,396 （千円） |

## （１）令和３年度実施事業一覧【公演事業】

<table>
<tr><th>番号</th><th>事業名</th><th>主な実施日程<br>主な実施会場</th><th>概　要<br>（演目、主な出演者、スタッフ等）</th><th colspan="2">入場者・参加者数</th></tr>
<tr><td rowspan="2">1</td><td rowspan="2">プーク人形劇場誕生 50 周年記念フェスティバル</td><td>2022 年 2 月 28 日～3 月 14 日</td><td rowspan="2">人形劇団京芸「おさん茂右ヱ門語り草」<br>人形劇団クラルテ「カマキリと月」・「ずんぐりイモムシの夢」<br>人形劇団ひとみ座「はれときどきぶた」<br>人形劇団むすび座トッケビ　鬼ヶ島と呼ばれた島」<br>人形劇団プーク「現代版・イソップ『約束』」／「死神」</td><td>目標値</td><td>1,445</td></tr>
<tr><td>プーク人形劇場</td><td>実績値</td><td>1,129<br>※</td></tr>
<tr><td rowspan="2">2</td><td rowspan="2">人形劇団プーク子どもの公演「12 の月のたき火」</td><td>2021 年 12 月 11 日～26 日</td><td rowspan="2">【スタッフ】演出：岡本和彦／美術：中山杜奔子／音楽：長澤勝俊<br>【出演】大橋友子、柴崎喜彦、他</td><td>目標値</td><td>1,302</td></tr>
<tr><td>プーク人形劇場</td><td>実績値</td><td>1,255</td></tr>
</table>

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

## （２）令和３年度実施事業一覧【人材養成事業】

| 番号 | 事業名 | 主な実施日程<br>主な実施会場 | 概　要<br>（演目、主な出演者、スタッフ等） | 入場者・参加者数 | |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | つくって楽しい、劇あそび！人形劇教室 | 2021 年<br>育成コース１期：５月１６～18 日<br>体験コース１期：７月２６～２８日<br>育成コース２期：９月１８～２０日<br>体験コース２期：１１月２７～２９日 | 講師：小原美紗<br>講師助手：今井みさほ（演劇ファシリテーター）／叶雄大（NPO 法人アートインライフ／玉川大学講師）<br>特別講師：栗原弘昌（(有）劇団プーク） | 目標値 | 50 名 |
| | | プーク人形劇場５階ホール・劇場 | | 実績値 | 66 名 |
| 2 | ※保育教材実践講座 | 2021 年 5 月 23 日、30 日、6 月 6 日、27 日、7 月 25 日　10:30～15：30 | 講師：荒木文子（手遊び・ゲーム／紙芝居）／和気瑞江（パネルシアター／ペープサート）／渡辺真知子(人形劇) | 目標値 | 60 名 |
| | | プーク人形劇場５階ホール | | 実績値 | 27 名※ |
| 3 | ※演劇と教育　おもしろ実験講座 | 2021 年<br>7 月 18 日、8 月 8 日、9 月 26 日、10 月 17 日、12 月 5 日、12 月 15 日<br>2022 年<br>1 月 9 日、2 月 6 日 | 講師：西田豊子（NPO 法人アートイン ashibina）／渡辺真知子<br>講師助手：土井真波・下村界 | 目標値 | 80 名 |
| | | プーク人形劇場<br>※新型コロナウイルス感染拡大の影響により、最終日のみリモート（ZOOM）開催 | | 実績値 | 65 名※ |

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

## （３）令和３年度実施事業一覧【普及啓発事業】

<table>
<tr><th rowspan="2">番号</th><th rowspan="2">事業名</th><th>主な実施日程</th><th rowspan="2">概　要<br>（演目、主な出演者、スタッフ等）</th><th colspan="2" rowspan="2">入場者・参加者数</th></tr>
<tr><th>主な実施会場</th></tr>
<tr><td rowspan="2">1</td><td rowspan="2">プーク人形劇場誕生５０周年記念　海外人形劇シリーズ No.７２　チェコ・アルファ劇場「快傑ゾロ」</td><td>8 月 11・17・19・28 日<br>8 月 21・22 日</td><td rowspan="2">「快傑ゾロ」　”POZOR, ZORRO”<br>【スタッフ】演出：トマーシュ・ドヴォジャーク/脚本：ヴィート・ペジナ/美術：イヴァン・ネスヴェダ<br>【出演】ペトル・ボロフスキー、他</td><td>目標値</td><td>6000 名</td></tr>
<tr><td>プーク人形劇場<br>大島町ふるさと体験館</td><td>実績値</td><td>495 名※</td></tr>
</table>

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

## ２．自己評価

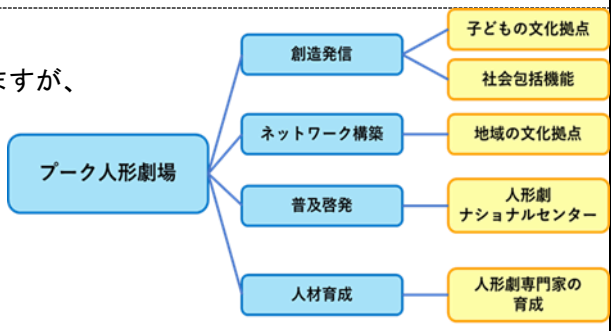
### （１）妥当性

**自己評価**

社会的役割等（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。

**≪社会的役割≫**

緊急事態宣言の発出に伴い、休業を余儀なくした期間もありますが、下記 5 つのミッションに基づき全事業を展開、すべての事業を予定通りに実施することが出来ました。社会基盤を支える劇場として一定以上の成果を上げる事が出来たと自己評価しています。




**【①子どものための文化拠点】**年間通じて全事業を実施。

コロナにより他県への移動自粛が求められ、街が閑散とする中、「プークがあってよかった」との声を頂いた。

**【② 海外とつながる人形劇のナショナルセンター】**

緊急事態宣言下でありながら、海外アーティスト 2 名の特別入国許可を獲得、多くの国際的な文化交流事業が中止となる中、海外アーティストの実演芸術を備えた事業として実施出来ました「世界の窓」として、一定以上の役割を果たしたことを評価しています。外国人入国に関する最新情報を、統括団体を通じて発信し、他団体も活用できるよう配慮しました。

**【地域の芸術文化拠点】**

コロナ禍の中、事業を計画通り実施することは、実演家への支援にもつながります。劇場文化の灯を守り抜く「砦」として、芸術活動拠点の役割を務めました。

**【③社会包摂を目的とした地域連携強化】**

コロナ禍の中、近隣の観客の獲得に注力、地域町会・商店会と連携を進めました。一定以上の観客数を確保することができました。

**【④ 人材育成】**人形劇の特性を、保育・教育現場に携わる表現教育者と共有を進めた。教育現場や、他ジャンルの実演家からの参加が多く、都内唯一の人形劇専門劇場へのニーズの高さが伺えました。

**≪事業内容≫**事業概要の通り　　**≪事業実施状況≫**全事業、予定通りに開催することが出来た。

助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。

プーク人形劇場は日本で初の人形劇専門劇場として、人形劇の創造・発信を続け、2021 年誕生 50 周年を迎えました。

年間来場者数は、20,000 人以上で推移していましたが、昨年はコロナの影響により約半減。本年度は 2019 年の 79%まで回復、家族 3 世代での来場者の姿が、ようやく戻りつつある。

【右表：年間来場者数（全国地方別）】

プーク人形劇場　年間来場者数(全国地方別)

| | 2019年 | | 2021年 | |
|---|---|---|---|---|
| | 来場者(名) | % | 来場者(名) | % |
| 北海道 | 70 | 0.3% | 17 | 0.1% |
| 東北(北) | 33 | 0.2% | 8 | 0.0% |
| 東北(南) | 149 | 0.7% | 134 | 0.8% |
| 北関東 | 690 | 3.2% | 324 | 1.9% |
| 都内 | 11,426 | 52.8% | 12,352 | 71.7% |
| 南関東 | 5,367 | 24.8% | 3,644 | 21.2% |
| 中部(東海) | 619 | 2.9% | 218 | 1.3% |
| 中部(上信越) | 274 | 1.3% | 143 | 0.8% |
| 関西 | 304 | 1.4% | 127 | 0.7% |
| 中国 | 132 | 0.6% | 28 | 0.2% |
| 四国 | 106 | 0.5% | 15 | 0.1% |
| 九州・沖縄 | 309 | 1.4% | 203 | 1.2% |
| 不明・その他 | 2,149 | 9.9% | 9 | 0.1% |
| 計 | 21,628 | | 17,222 | |

オンラインを活用した交流会も頻繁に実施。全国各地から多くの視聴者（参加者）があり、その中からは、次年度事業への参加申し入れを受けた。「人形劇には未来がある！」との声も多く頂いている。本年度、三事業を合わせて実施することで、各事業が相互に有機的に結びつき、新しい実演家との協働が生まれ、新しい観客層の獲得にもつながっている。コロナ禍により疎外感が進んでいる。人形劇には、人と人を結びつける力がある。今後ますますの事業展開が必要になることを実感している。

## （２）有効性

| 自己評価 |
|---|
| 目標を達成したか。 |

**今回の事業にあたり、設定した目標と指標、および検証（評価）は以下の通りです。**

**【公演事業】**

**目標①年間来場者 22,000 名以上／目標②公演事業入場者 2,500 名以上　目標③入場率８０％以上　目標④観客満足度「大いに満足・満足」85%以上　目標⑤新規来場者割合４５％以上　目標⑥映像配信視聴 2000 回**

**【指標】①　年間来場者　17,222 名(目標未達)　目標②　公演事業の来場者　2,384 名(目標未達)**

**以下、公演ごとに目標と比較検証**

**≪公演事業①≫　③入場者 1,129 名　入場率 75.3%(未達)　④ 満足度 99.0%(達成)　⑤新規来場者 27.8%(未達)**

**≪公演事業②≫　③入場者 1,255 名　入場率 89.6%(達成)　④満足度 88.4%(達成)　⑤新規来場者 45.3%(達成)**

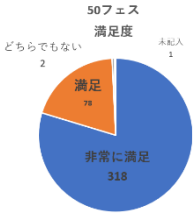
事業②では大方の目標を達成したが、事業①は「まん延防止重点措置」期間と重なり、目標未達となった。感染状況に左右された結果となったことが、明確に現れました。

**人形劇団プーク　来場者　子どもの公演(2017～2020年)　同種事業推移**

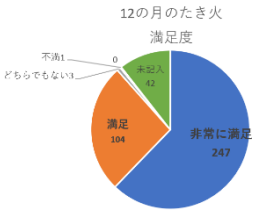
| | 演目 | 日数・st数 | 入場者 | 有料 | 招待 | 入場率 | 有料率 | アンケート | 回収率 | 満足度 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 2017年11月・2018年3月 | くまの子ウーフ・がんばれローラー君 | 20日・28st | 2339 | 2135 | 204 | 83.5% | 76.3% | 538 | 23.0% | 85% |
| 2018年12月 | 12の月のたき火 | 7日・13st | 1,222 | 1,116 | 106 | 94.0% | 85.8% | 269 | 22.0% | 85.0% |
| 2019年12月 | 12の月のたき火 | 8日・14st | 1,289 | 1,213 | 76 | 92.1% | 86.6% | 291 | 22.6% | 87.6% |
| 2019年1月・3月 | もりのへなそうる・ふしぎな箱 | 20日・20st | 1,733 | 1,579 | 154 | 86.7% | 79.0% | 464 | 26.8% | 87.0% |
| **2021年12月** | **12の月のたき火** | **7日・14st** | **1,255** | **1,197** | **58** | **89.6%** | **85.5%** | **413** | **32.9%** | **88.4%** |
| **2022年3月** | **50フェス** | **8日・15st** | **1,129** | **1,013** | **116** | **75.3%** | **67.5%** | **399** | **35.3%** | **99.0%** |

※50フェス公演は、子どもの公演ではありませんが、比較検証のために並べてあります。

| 50フェス 来場回数 | | |
|---|---|---|
| 来場回数 | 回答数 | % |
| 初 | 111 | 27.8% |
| 2~3 | 75 | 18.8% |
| 4~5 | 55 | 13.8% |
| 6以上 | 158 | 39.6% |
| 未記入 | 0 | 0.0% |
| 計 | 399 | |




| 2021年 12の月 来場回数 | | |
|---|---|---|
| 来場回数 | 回答数 | % |
| 初 | 187 | 45.3% |
| 2~3 | 78 | 18.9% |
| 4~5 | 44 | 10.7% |
| 6以上 | 63 | 15.3% |
| 未記入 | 41 | 9.9% |
| 計 | 413 | |




**アンケート回収率**

**事業①　35.3%**

**事業②　32.9%**

**【人材養成事業　目標】**

**【目標②】**人形劇作り指導者育成：児童青少年演劇におけるファシリテーターの育成・研究（事業①）

**【目標②】**幼児等の教育現場支援：保育現場等で実演する実演家の育成、児童文化財の活用方法の研究（事業②）

**【目標③】**コミュニケーション教育指導者育成：演劇教育・保育・障害医療など、多方面よりコミュニケーションの在り方を研究（事業③）

**各事業の受講満足度　９５％以上　／　各事業継続希望　９５％以上**

**【指標】**事業③　**継続希望 100%**

参加者数：のべ 65 名（目標 80 名／達成率 81.2%）前年度比：達成率 10.0%UP

**【普及啓発】緊急事態宣言下の事業開催となり、観客動員目標を達成することはできませんでした**

**【目標①】**　観客動員数　６０００名以上

**【目標②】**　観客満足度９０％以上

**【目標③】**　新しい観客層の獲得　　初来場者割割合４５％以上

**【指標】　観客満足度、新規来場者割合の目標は達成。付加価値の高いコンテンツであったことが伺えます。**

①　観客動員数　会場 265 名　配信 220 名　合計 495 名　コロナ感染症の影響を受け**未達**

②　観客満足度　会場、配信ともに 100%（アンケート回収率　会場 38%/配信 12%）　**達成**

③　新規来場者数(割合)　会場 176 名(66%)　配信 98 名(41%)　**達成**

## （３）効率性

| 自己評価 |
| --- |
| アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。 |
| **【公演事業１】**ほぼ計画通りに遂行。<br>　事業期間が「重点措置期間」と重なり、目標通りの来場者獲得には至らなかったが、多くの芸術団体が参加する「フェスティバル」は、数年前からの計画が必要となる。計画通りに追行できたことからも、事業期間は適切であったと自己評価している。<br>**【公演事業２】**計画通りに実施。<br>　最も感染状況が落ち着いていた期間での事業実施となった。クリスマス公演として、満足度も前年よりアップしていることからも、適切な期間の事業であったと自己評価しています。<br>**【人材養成事業】**全事業、ほぼ計画通り実施。<br>事業③：新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、最終日のみオンラインでの開催。事業の質には影響なく、適切な事業期間であったと評価している。<br>**【普及啓発】**<br>東京 2020 大会期間中に実施することが必須の事業であったことから、緊急事態宣言中の期間と重なったが、事業期間は当初計画通り実施した。2 名の特別入国の承認を頂いた。コロナ禍のため、様々な文化事業が中止となる中、海外の貴重な実演芸術の発表を備えた事業を展開することが出来た。周到に準備計画が施されていたからこその、特別入国許可であり、適切な事業計画であったと評価している。 |
| アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。 |
| **【公演①】**「重点措置期間」と重なり、見込んでいた動員数に届かず、収益率は未達。支出に関しては、実演家の来京日程に合わせるなどの効率性を高めることで、感染防止対策費用の増加分を賄うことが出来た。<br>**【公演②】**計画通り実施し、収益率は見込んでいた 49.3%から、51.4%へと回復。概ね予算通りの執行状況となった。<br>**【人材養成】**全事業、ほぼ計画通り実施。<br>事業②：新型コロナウイルス感染拡大を受け、会期中に各回定員を減らし開催となった。（各回定員 12 名→６～８名／達成率 67.5%）参加者は保育関係者や教員が主だったことから、感染状況を踏まえた適切な措置であったと自己評価している。<br>**【普及】**「外国人入国拒否」の状況にあり、予定していた海外アーティスト 10 人全員の招聘は叶いませんでしたが、「特別入国許可」として 2 名の来日を果たせました。14 日間隔離など検疫に係る費用に関しては、要望時は、事業経費としては計上していなかったが、海外アーティストと案分負担することを契約(2020 年 10 月)していた。隔離措置期間に係る費用については、そのため、計画内の事業費で執行することが出来ました。<br>　**＜全事業を通じて＞　～コロナウイルス感染症への対応と、効率性および有効性**<br>　コロナ禍の 2 年目。安心安全を第一にして取り組むこと、そして各ステークホルダーとの信頼関係構築に注力しました。各方面との連絡調整に多くの労力が必要であったが、本年度(2022 年度)へ継続している。芸術性の高い事業の成果ととらえている。<br>　感染対策の周知、オンタイムでの混雑状況のアナウンスなど、きめ細かい事業展開により、近隣の方の新規来場者の獲得、定員上限に迫る観客数を維持出来ました。これまでプーク人形劇場を訪れたことが無い方々からの反響も数多く頂き、オンライン配信の発信力の強さを実感しました。 |

## （４）創造性

| 自己評価 |
| --- |
| 地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。 |

1971 年に開設したプーク人形劇場。開設当時よりその使命は明確であった。

「劇団創立以来 42 年間にわたる歩みーそのたたかいの中から、プーク人形劇場は生まれたー
　かつての夢は一今ここに現実となる
　この劇場は、わたしたちのものであり、わたしたちだけのものではないー
　こどものためと日本のための人形劇芸術の砦としてこの劇場を守り育てることこそ、わたしたちの仕事！
　わたしたちは誓う一人形劇を愛する日本中の、全世界の友人たちの熱い友情と励ましをおぼえながら一」
　～１９７１，１１．２６～

　事業を通じ、プーク人形劇場の使命を改めて確認する機会となり、「地域の文化拠点」と同時に、「日本の人形劇界をけん引する役割」を再認識する契機となった。劇場の歴史・実績・人材を含めた、すべての劇場機能を最大限活用し、その成果を如実に表した優れた事業だったと自己評価しています。

　いずれの事業も、アンケート回収率が 30%以上と高く、暖かいメッセージが多数寄せられた。劇場を取り巻く観客・地域・業界(実演家)の温かい広がりを実感しました。プーク人形劇場のこれまでの実績の集大成となる、創造性の高い事業展開であったと、自己評価している。

　「劇団」と「劇場」が緊密に連携して望むことにより、芸術性が担保され、単なる作品上演にとどまらず、地域社会との連携を一層深める成果につながっている。さらに、東京公演の機会が少なかった地方の人形劇団の作品発表の機会を創出、関東圏の売り公演へと広がっているとの報告がある。売り公演数の集計には今しばらくの時間が必要となるが、芸術発信劇場としての役割を果たすことが出来たのではないかと、期待している。

【人材養成事業】においても、劇場の機能・特性（子どもの文化創造発信の拠点／人形劇専門劇場）を活かし、子どもと携わる現場（幼児教育・児童青少年演劇・演劇教育など）で活動する人へ向けた研究・考察の場を創出。次年度への継続を希望する割合は、９５％以上(アンケートより)あり、ニーズの高さをうかがわせる。

三事業を連携させて臨むことで、実演家、教育者、観客(地域)を繋ぐ劇場の役割と機能を発揮できたのではないだろうか。

**※追跡調査アンケートの実施（事業終了４か月後に Web アンケート）回収率：28.57%**

〇事業での体験が、自身の活動の参考になった：75%　〇現代社会に必要と感じるか：必要 100

【普及啓発】特筆すべきこととして、2 名の人形劇俳優を、チェコから招聘できた。　特別入国許可は、世界的に有名なオペラ監督や、クラシック音楽の指揮者等、世界的にメジャーなアーティストに限られる感があったが、今回のチェコ人形劇俳優に与えられた特別入国許可は、日本政府が、人形劇俳優を国際的なスターとして認めた初めてのケースではないだろうか。今後、人形劇芸術が、舞台芸術に欠かせないジャンルとして、その地位が向上することを期待している。プーク人形劇場のこれまでの実績と資源を最大限活用した成果の一つととらえています。

**チェコ共和国・ピルゼン市 HP**

https://www.plzen.eu/o-meste/aktuality/aktuality-z-mesta/namestkyne-eliska-bartakova-podekovala-rediteli-divadla-alfa-za-prezentaci-plzenskeho-loutkarstvi-v-japonsku.aspx

## 自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながった（と認められる）か。

**エリシュカ・バルタコヴァー副大臣は、日本でのピルゼン人形劇の発表についてアルファ劇場のディレクターに感謝した。**

*Zdroj fotografií: Divadlo Alfa*

„Japonsko uzavřelo pro cizince hranice a do země lze vstoupit pouze ve velmi výjimečných případech. Pro umělce platí, že jejich tvorba musí mít zásadní světový rozměr, obvykle se jedná například o světoznámé operní režiséry či dirigenty vážné hudby. Japonské ministerstvo kultury nakonec přiznalo tento status světových hvězd i plzeňským loutkářům," vysvětlil ředitel Divadla Alfa Jakub Hora. „Kvůli pandemii zde nakonec vystupovali pouze japonští umělci a celý zahraniční program byl formou online přenosu. Plzeňští loutkáři tak byli jediní reální zahraniční umělci, kteří hráli naživo," dodal Jakub Hora.

50 周年事業として新聞記事等の掲載が多数ありました。

特筆すべき掲載は下記のとおりです

**「チェコピルゼン市 HP　2021.9. 7」**（左側写真参照）

日本語訳（抜粋）

　エリシュカ・バルタコバ副市長（文化・遺産・社会問題担）は、ピルゼン市を代表して「日本への入国が非常に厳しくなっているこの時期に、ピルゼンの人形劇を日本の観客に見せることができたことを大変嬉しく思います。ピルゼンの人形が日本に渡ったのは、文字通り小さな奇跡です。人形劇の伝統は、有名なピルスナービールと同じようにプルゼニのものであり、日本の人形劇フェスティバルへの参加やアルファ劇場の活動全般は、プルゼニの豊かな人形劇の伝統が終わっていないことを証明しています」と語った。（以下省略）

　多くの国際的な文化芸術交流事業が中止となる中、TOKYO2020 大会における東京都の文化事業の一つとしても、実演芸術の紹介を兼ね備えた数少ない取り組みとなった。大島での公演も含め、国際交流を続ける劇場として、地域の芸術振興の発展への役割を果たせたと評価しています。

**来場者アンケート【一部抜粋】**

・コロナで観劇機会が減少し、生活が少しづつ曇っていくように感じていたので、今回の機会は大変嬉しかったです。/・チェコ人形劇の実際の操演も見られ、最後に人形を触り、重さなどを実感。素晴らしかったです。

**・東京七島新聞（2021.8.28）より**

「大島では、このような機会は初めてで、素晴らしい経験をさせてもらった。コロナが落ち着いたらゆっくり楽しみたい。」

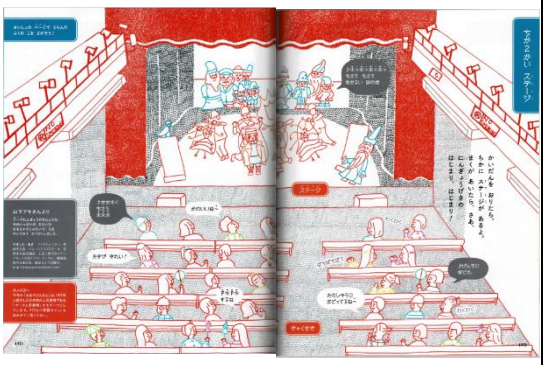
**小学館「幼稚園」2022 年 2 月号（2022.1. 1 発行）掲載紙面　全 5 ページ　一部抜粋（下側参照）**

イラストレータ：山下アキ

劇場の紹介記事

入場から、チケット購入、ロビーから、観劇までの様子を紹介する特集記事。　舞台では、（公演事業②）「12 の月のたき火」の一場面が描かれている。

「子どもたちにとって、初めての劇場体験」の様子を生き生きと伝えてくれました。



他掲載記事（事前紹介記事）

共同新聞配信記事　愛媛新聞（2021. 5.3）　上毛新聞（2021. 5.2）他

## （５）持続性

| 自己評価 |
|---|
| 事業を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。 |

各事業終了後には、関係者・団体と報告会を開き、実施状況と成果、改善点を検証しています。この報告会をもとに、次年度の活動(事業)計画に役立てています。

また、プーク人形劇場、劇団プーク、スタジオ・ノーヴァ３社による株主総会「人形劇団プーク　統一総会」を年 3 回開き、活動方針・活動報告・予算・決算を討議し、新役員を選出しています。これら討議の下、各事業計画と実施状況をそれぞれ検証し、改善すべき点を定め、各事業の実施ごとに発展することを目指しています。

**事業を通じての、組織的な成果は以下の通りです。**

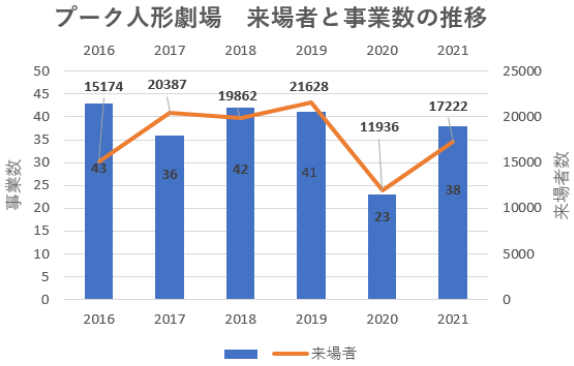
**≪雇用者の推移と人材育成≫**

雇用者数の推移　　2021年4月1日時点

| | 20代 | 30代 | 40代 | 50代 | 60代 | 70代 | 合計 | 新規雇用 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 2014年 | 0 | 1 | 1 | 0 | 4 | 0 | 6 | － |
| 2016年 | 1 | 0 | 2 | 0 | 4 | 0 | 7 | 1 |
| 2018年 | 1 | 1 | 2 | 0 | 3 | 1 | 8 | 1 |
| 2019年 | 1 | 2 | 3 | 0 | 3 | 1 | 10 | 2 |
| 2020年 | 1 | 3 | 2 | 0 | 2 | 2 | 10 | 1 |
| 2021年 | 2 | 3 | 1 | 1 | 2 | 2 | 11 | 1 |
| 2022年 | 3 | 3 | 1 | 1 | 2 | 1 | 11 | 1 |

スタッフの高齢化が進み、若手スタッフの獲得・人材育成が課題となっていました。魅力ある事業を重ねる事のより、新規人材を獲得。計画通りに、本年度も新規雇用者を獲得することが出来ました。（左表参照）次世代への継承を進めることで、経営・事業運営面においても改善が見られます。　また、歴史ある活動を次世代へ継承していくため、機械的な定年制度ではなく、ベテランも活躍できる新しい雇用形態への切り替えを進めています。若い人材が活躍できる「多様な活動・事業」を進めることで、将来性のある雇用条件への改善を目指しています。

**≪来場者と事業数の推移≫～コロナ禍からの回復～**




年間来場者は、約 2 万名前後で推移していたが、2020 年パンデミックによりほぼ半減していた。

2021 年は、「劇場誕生 50 周年」の記念年間。一時休業要請が発出されるなど、コロナ過の中で迎える事となったが、を実施していくことで、78%（2019 年比）まで回復することが出来た。（右表参照）　劇場の組織とともに、劇場の価値を高めることが出来たと実感しています。

**≪コロナ禍の中の劇場音楽堂等ネットワークの構築≫**

海外特別公演　連携劇場推移

| 年 | 会場数 | 都市名 | 新規 |
|---|---|---|---|
| 2016 | 7 | 札幌･東かがわ･新宿･飯田･名古屋<br>神戸･伊豆大島 | 1 |
| 2017 | 7 | 札幌･東かがわ･新宿･飯田･名古屋<br>砂川･三次 | 2 |
| 2018 | 9 | 札幌･東かがわ･新宿(3会場)･飯田･名古屋<br>那覇･宜野座村･佐久･高崎(2会場) | 4 |
| 2019 | 6 | 札幌･東かがわ･新宿･飯田･名古屋<br>三次 | 0 |
| 2020 | 16 | 札幌･東かがわ･新宿(3会場)･飯田･名古屋<br>知立･大阪･京都･南あわじ･高崎･前橋･藤沢･砂川･旭川 | ※ |
| 2021 | 14 | 札幌･東かがわ･新宿(3会場)･飯田･名古屋<br>知立･大阪･京都･南あわじ･高崎･藤沢･砂川 | ※ |
| 2022(見込み) | 17 | 札幌･東かがわ･新宿(**3会場**)･飯田･名古屋･**伊豆大島**<br>知立･**武豊**･**岡山**･大阪･京都･南あわじ･高崎･藤沢･砂川 | 7 |

※2020年･2021年　コロナ禍により上演中止

コロナ禍のため、2020 年、2021 年と海外作品のツアー公演は中止とせざるを得なかったが、劇場連携を進める各劇場は、事業の実施を待っていてくれた。（右表参照）パンデミックの中、海外劇場の活動の様子を、各劇場にも発信を続け、互いに創意工夫した活動の様子を交流してきた成果ではないだろうか。3 年間の劇場連携とは、すでに戦友のような連帯感が生まれている。すべての連携劇場と共に、コロナからの回復を目指していく。

**≪創立 50 周年を迎えた「プーク人形劇場」≫**

創立 50 周年を迎え、プーク人形劇場の歴史的・芸術的価値と役割が一層鮮明となっています。

「～我々の念願であった劇場はついに完成した。この劇場は、わたしたちのものであり、わたしたちだけのものではない。子どものためと日本のための人形劇芸術の砦としてこの劇場を守り育てる事こそ、わたしたちの仕事！(抜粋)」この劇場開設時の使命を、今日に発展させ、地域の劇場、子どものための文化拠点、地域の実演家の創造拠点として、公演・人材育成・普及啓発の統括的な事業計画を進めています。